

# 2023年度 東京YMCA国際ホテル専門学校 自己評価表

## 1. 学校の教育目標

本校の教育目標はホテル・観光専門課程において以下の学生を育成し日本のホテル・観光業界に寄与する学生を輩出することが使命である。①ホスピタリティ溢れる人材の養成。②サービススキルはもとより、世界各国から訪日されるゲストをもてなす知識と技術の体得。③コミュニケーション力に溢れ、人と人の出会いの場と、豊かな人間関係が育まれる教育を目指す。

## 2. 本年度に定めていた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1. Practice Hospitality を教育理念の1つとし職業実践教育を継続して行う。  
(ホテルでの通常実習制度の充実)
2. 1 学生が2資格以上資格取得することができるようにする。
3. 就職率 95%以上を維持する。

## 3. 評価項目の達成及び取組状況

### (1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
・学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④	3	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	③	2	1

### ① 課題

18 歳人口の減少と大学全入時代を受けて、専門学校への進学者が分野を問わず、減少傾向にある中、既存の理念、育成人材像の設定だけでは、学生数を潤沢に集めることが難しい時代になっている。しかし、海外からの旅行者(インバウンド)の数は上昇傾向にあり、新規ホテルの開業は止まらない状況下で人材・人員不足は大きな課題になっている。就学者を宿泊産業に輩出することが本学の使命でもあるが、そこに人材を潤沢に供給できない大変悩ましい時代である。

### ② 今後の改善方策

日本人学生の確保も大事ではあるが、海外から来る留学生を積極的に受け入れて、創立して 89 年の伝統と実績・幅広い人材ネットワークを活かし、教育理念を維持しつつも、新たな教育環境の整備をして、外国人労働者へのサポートを実直にしていくことが望まれる。

### ③ 特記事項

特になし

## (2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
	④	3	2	1
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効的に機能しているか	④	3	2	1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	④	3	2	1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

### ① 課題

安定した学校運営をする為には、学生数の確保が必要不可欠。定員を満たせるようにすることが必要。

### ② 今後の改善方策

競合他校との差別化を如何に表現するかが課題。ウェブマーケティング、SNSでの情報公開などを積極的に行う。

### ③ 特記事項

特になし

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点にたったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	③	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
・人材育成の目標達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

④ 課題

〔 日本におけるホテルマン教育のパイオニアとして 89 年の歴史を持つサービスマン養成校ではあるが、時代のニーズに合わせた、カリキュラムを新たに構築する必要性を感じる。 〕

⑤ 今後の改善方策

〔 新科目として「SDGs理解講座」を設置。次の時代を担うホテリエに必要な知識・ノウハウを提供する。 〕

⑥ 特記事項

〔 1万 2000 人を超える、卒業生のネットワークを活かし、現場で求められる知識・技術の確認と、マネジメント層に求められる知識やスキルの情報収集が急務。 〕

(4). 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや適切…2、不適切…1			
・就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
・退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	③	2	1

① 課題

就職率は、過去にないペースで就職希望者全員が内定を受諾できている。学生個々の志望にあった企業に内定できるように更なる丁寧な進路指導を推進したい。

② 今後の改善方策

卒業した後も、転職のサポートができる体制を作る。就職実績が多い企業との連携を密にし、転職、再就職の希望者へ中途採用の情報を定期的に発信できる仕組み作りをする。

③ 特記事項

留学生に関しては、在学中に全員が日本語能力試験2級以上を取得することを目標とする。

(5). 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや適切…2、不適切…1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
・保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	④	3	2	1

① 課題

学生に対する経済的な支援体制を、さらに強化できるようにする。関係団体や OBOG による校友会の支援要請を計画する。

② 今後の改善方策

関係団体や OBOG による校友会の支援要請を計画する。

③ 特記事項

特になし

(6). 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや適切…2、不適切…1			
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

① 課題

- ・学内のWi-Fi環境の整備を実施済。全教室でノートPCを使用しての講義が整った。プロジェクターの経年劣化が見受けられるので、新機種での改修、部品の交換などが随時求められる。
- ・学外での実習授業をする際の、使用コストの上昇が懸念される。
- ・海外研修の実施は円高の影響もあり、コスト上昇に伴い欧州へのホテル研修を見送り、東南アジアでの実施を計画している。

② 今後の改善方策

- ・海外研修旅行は円高、単価上昇が収まらないと学生の負担が大きく実施が難しいが、旅程・行先などの工夫をして海外旅行体験を在学中に経験させることを継続して行っていく。

③ 特記事項

- ・耐震工事の実施を行い、現在は校舎の耐性も強くなり安全な環境を提供できている。

(7). 学生の受入募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや適切 …2、不適切…1			
・学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

入学相談室の体制は非常に機能している。資料請求対応・高校訪問・募集イベントを計画的に行っている。しかし、募集イベントへの来校者数が軒並み前年より低く、大変厳しい状況である。近年、AO入試での受験希望者が増加傾向。進路決定の早期化がポイント。丁寧な対応が求められている。

② 今後の改善方策

AO入試に特化した学校説明会の実施。試験日を多く設定する必要がある。併せて、留学生対象の特別試験を10月より前倒して行う。

③ 特記事項

本校独自の奨学金制度を持つ。

(8). 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや適切…2、不適切…1			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	③	2	1

① 課題

学校母体である公益財団法人東京YMCAの公開は行っている。

② 今後の改善方策

本校だけの財務状況を公開。

③ 特記事項

(9). 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや適切…2、不適切…1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
・自己評価の実態と問題点の改善を行っているか	4	③	2	1
・自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

自己評価だけでなく学校関係者評価委員会による評価を行うことが出来た。更に第三者評価が出来るようにしていきたい。

② 今後の改善方策

学校内教職員だけでなく、保護者、卒業生、高校教員、業界関係者からなる評価の実施と開かれた学校として情報の開示への改善を行う。

③ 特記事項